

◎第4回理事会 (35.9.26) 出席者：沼田会長，滝山副会長，阿部，小倉，尾之内，岡本，川勝，小西，佐藤，田中，林，八十島，末森専務の各理事。議事：1) 風のシンポジウム連絡協議会には参加することに決定。2) 第12回毎日工業技術賞に因子武八氏の「遠心力製中空鉄筋コンクリート杭の継手」を推薦すること。3) 海外連絡委員会構成については学術会議の機構を調査し関係者と相談すること。4) 土木学会編「明治以前日本土木史」と日本学士院編「明治前日本土木史」との著作権関係問題については文部省の意見を参酌して善処すること。5) 日本工学会会長候補推薦については沼田会長考慮の上処置すること。6) 文献調査委員会 山村和也委員を駒田敬一氏に交代委嘱を承認。7) 日本道路公団の委託研究「コンクリート グラウチングに関する研究」を受諾すること。8) 論文集委員会の各部に地方委員（東北，中部，関西，中国四国各支部）を加えることを承認。9) 8月中会員入退会を承認。

◎各種委員会

(1) 第1回土木賞委員会 (35.8.31) 出席者：沼田，富樫，岡本，扇田，星埜，四野宮，小野，米谷(代小西)，田中，庄司，村上の各委員。議事：(1) 土木賞規約制定委員会により制定された「土木賞授与規程ならびに土木賞委員会運営に関する内規」について検討審議しおのの訂正して発表することとした。(2) 委員長，副委員長，主査を次のように互選決定した。

委員長	沼田	政	矩
副委員長	米谷	栄	二
学術賞主査	星	埜	和
技術賞主査	岡本	東	一郎

(3) 本年度の募集要項を決定し，会誌9月号に発表することとした。

(2) 第10回フライアッシュ小委員会 (35.9.1) 出席者：三浦，平野(生)，河原，山田(代塚山)，高橋，武藤，本間(代康田)，光岡，久木田(代天本，国武)，太齋，平野(硬)(代石川)，石垣の各委員。議事：1) フライアッシュ参考文献一覧表，他耐久試験等8資料を配布。太齋，塚山，河原，平野(生)委員が説明。2) 耐久性試験については，業界側としてフライアッシュ資料として新東京火力のもの1種を使うことに決定した旨，高橋委員より報告。セメントの資料試験方法については，委員長欠席のため，決定は次回にゆずることとし，各委員においてそれまでに考えていただくこととした。3) 前シンポジウムの質疑応答をなんらかの形で論文集にとり入れたい旨委員長に連絡すること。なお同論文集発刊につき種々審議した。

(3) 第4回文献調査委員会 (35.9.5) 出席者：久野委員長，安芸，石原，城所(代富田)，佐藤，田中，高野，山村(代駒田)，依田の各委員，日野幹事。議事：1) 45巻10号登載抄録，目録の選定。2) 各大学の紀要の取扱いについてカードをそえて依頼すること。3) 担当雑誌の変更。4) 文献分類方式について小委員会を設ける件。5) 委員交代の件，山村委員が海外留学のため駒田敬一氏(建・土木研究所)と交代。6) その他。

(4) 第4回会誌編集小委員会 (35.9.9) 出席者：堺副委員長，西田，嶋(代椎貝)，吉田，林(茂)の各委員。議事：45巻9号口絵写真について協議。2) 45巻9号ニュースの選定。3) 45巻10号会誌編集につき最終的な打合せを行なった。4) その他。

(5) 第1回文献調査幹事打合せ (35.9.12) 出席者：久野委員長，安芸，徳田，石原，大西の各委員，日野幹事。議事：1) 文献分類方式について，分類の骨子を作るために協議した。

(6) 第2回論文集編集委員会 (35.9.14) 出席者：第1部会：君島部会長，久保，平嶋，竹間，相良，井上，伊藤，大久保の各委員。第2部会：林部会長，中山，藤波，木村，高橋(裕)，吉村，光易，芦田の各委員。第3部会：最上部会長，永盛，久野，高橋(国)，渡辺，森，山口の各委員。第4部会：多谷，佐藤，斎藤，鈴木，柳田，藤井(代)，土屋の各委員，西脇幹事。議事：1) 各部会ごとに審査報告。2) 新規受付原稿審査委員の決定。3) 各部会ごとにアンケート案について協議した。4) その他。

(7) 第8回PC設計施工指針改訂小委員会 (35.9.16) 出席者：国分委員長，宮崎(義)，山田，猪股，三浦，川口，清野，小寺，樋口，松野，丹，中村，上前，宮崎(昭)，小田，野口，板垣(代猪股)，百島，大西の各委員，井上，船越の両幹事。議事：1) 13，18条および39条については当時委員会に担当執筆委員欠席のため，審議未了であったので再審議。その結果13，18条については改めて改訂原案を作るよう幹事に依頼。2) 56～58条につき逐条審議。3) グラウトについて樋口委員より原案を提出説明。4) グラウトの専門委員会については今月末頃に委員会を開催すること。メンバーおよびその日時については，後日委員長，幹事間で相談の上決定。5) 次回およびその次の委員会については9月26日前後，10月5日前後としグラウトと同じく，委員長と相談の上決定のこと。6) 次回はせん断応力について審議するか清野委員より前に特別委員会に提出した資料を訂正して次回委員会に再提出されるよう依頼した。

(8) 第2回論文集部会長会 (35.9.19) 出席者：最上委員長，君島，林，佐藤，大久保，山口，芦田の各部会長および部会幹事，西脇幹事。議事：1) 各部会報告。2) 各部会での原稿処理状況の確認。3) 論文集71号(35

年 11 月発行) 登載原稿の予定。4) 71 号別冊として 4 編予定した。5) 英文論文集の取扱について。6) 71 号から論文集は 2 段組にすることに決定。7) アンケートの件。8) 地方委員の件。9) その他。

(9) 第 1 回耐震工学委員会 (35.9.20) 出席者: 那須委員長, 沼田, 岡本, 田原, 星埜, 佐藤 (代森本), 久保, 高畑の各委員。議事: WCEE について: あと始末の段階に入っているが 12 月にプロシーディングを発売する作業は順調に進んでいる。内容としては行事参加者名簿を折込んで 3 冊に分冊して発売する予定。2) 強震測定委員会について震研; 中に強震測定委員会が設置されており土木方面として東, 畠山, 田原, 岡本, 友永, 沼田の各氏が委員として御協力いただいているが, 御転勤, 御多忙な方もおられるので, このさい交代を行ないたい旨那須委員長より申出, 岡本, 友永, 沼田の三氏については御留任願うこととし, 東氏の後任には港湾局から推薦, 畠山氏の後任には通産省から推薦 (高畑委員に依頼), 田原氏の後任には横田氏を御願うことに決定。3) 第 4 回地震工学研究発表会について; 第 2 回 (11 月 8 日午後電研を見学すべく依頼したが当日は, 電研の方で会議のため都合がわるい旨連絡があったので見学先を変更することとし, 京葉道路および土研千葉支所を見学することになり学会から依頼する。また一方講演の方については, 学会からそれぞれ講師に原稿用紙を添付して依頼したが討議については次のように司会者を決定, 学会から連絡依頼する。

港湾構造物の耐震設計の討議	石井 靖 丸 氏
橋梁の耐震設計の討議	友 永 和 夫 氏
アーチ ダムの振動性状	畠 山 正 氏
耐震設計震度委員会討議	田 原 保 二 氏

4) クリシナー氏文献寄贈の件; 先に関東地震震害報告書の寄贈方につき審議したが学会に数冊のストックが発見されたので, 贈呈処分方について理事会に上申お願いする。5) 次回委員会は 10 月 18 日 5 時 30 分土木学会会議室で開催する。

(10) 第 4 回会誌編集委員会 (35.9.21) 出席者: 堺副委員長, 足立, 浅井, 井前, 斎藤 (代石崎), 嶋, 中村, 林 (四), 林 (茂), 谷田沢, 山本 (代大塚), 吉田渡部, 後藤 (東北), 田中 (関西) の各委員, 杵掛幹事, 末森専務理事。議事: 1) 審査中原稿の審査報告。2) 新規受付原稿の審査委員の決定。3) 依頼原稿の状況について。4) 新規依頼原稿について。5) アンケートについて。6) 講座の件。7) 45 巻 11 号登載原稿を次のとおり予定した。

小野一良・成瀬忠明: 普通路盤の鉄道線路におけるレールのクリープについて, 中岡二郎: 建設機械損料の算定法の解説, 伊藤 学・島田静雄・熊沢周明: 勝瀬橋を対象とした斜張桁橋の模型実験ならびに載荷試験について, 後藤尚男・藤森 哲・八木 寿・芳見忠志: 斜杭, 組杭をふくむ鋼製基礎杭に関する

現地試験, 清水留三郎: 電子計算機のプログラミング。

(11) 第 9 回 PC 設計施工指針改訂小委員会 (35.9.27) 出席者: 国分委員長, 山田 (代塚山), 猪股, 川口, 清野, 樋口, 松野, 今村, 丹, 中村, 杵掛, 上前, 小田 (代川路), 板垣 (代猪股), 大西, 野口の各委員, 井上, 船越両幹事。議事: 1) 第 5 章せん断応力の 59 条, 60 条, 61 条の訂正案を資料 (スターラップの計算比較) を添付配付, 清野委員より説明審議した。61 条については猪股委員が訂正の上再提出願うことになった。2) 62, 63, 64 条の許容応力について審議したが, 原案提出者小寺委員欠席のため次回に再審議することに決定。3) 新委員として運輸省運輸技術研究所の木庭宏美氏を本小委員会およびグラウト専門委員会委員として, 大成建設の湯田坂益利氏を小委員会委員として追加委嘱, 次回から御出席願う。4) 次回 (4 日) の次の開催日を 12 日と決定, なおこのときに鋼材会社 8 社から代表者の出席を求め, 意見を聞くこと。

(12) 第 1 回グラウト専門委員会 (35.9.28) 出席者 国分, 樋口, 小寺, 松野, 中村, 上前 (代小村), 小田, 板垣 (代猪股), 大西, 岩崎, 山崎 (代塚山), 杉木, 木庭, 野口, 井上, 船越の各氏。議事: 1) 土木学会プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会 国分委員長が引続き同委員長を兼任いただき, 樋口氏を幹事役に前回 PC 小委員会に決定した構成メンバーに大成建設の只野氏を追加委員をお願いし, それぞれ御尽力いただくことになり, 国分委員長より本委員会の設立につき説明があった。2) PC グラウトの土木学会規格外数資料を配布, 樋口, 松野両委員より説明。3) コンシステンシー測定の実験用器具の型式および材質については 2 種類とする (松野, 樋口両氏案) こととし, 東大始め各委員所属の実験室で実験し, その結果を報告すること。4) PC グラウトのブリージング率および膨張率試験方法につき審議, ポリエチレンの袋を利用, コンシステンシーの測定とあわせて試験する。各委員実験可能な試験器具数を報告いただくことに決定。5) PC グラウトの強度試験方法については, 圧縮, 曲げ, そしてできれば引張試験を行なうこととし, その試験方法につき審議した。6) グラウト専門委員会の構成は次のとおりとする。

委員長 国分正胤

委員 樋口芳朗(兼幹事), 白木良昭, 小寺重郎, 松野操平, 中村正平, 杵掛哲男, 上前行孝, 小田純夫, 板垣隆義, 百島祐信, 大西清一, 岩崎訓明, 山崎寛司, 杉木六郎, 木庭宏美, 野口 功, 井上六郎, 船越 稔, 只野真典

支 部 だ よ り

1. 北海道支部

(1) 会長との懇談会 (35.8.11, 第一ホテル) 沼田

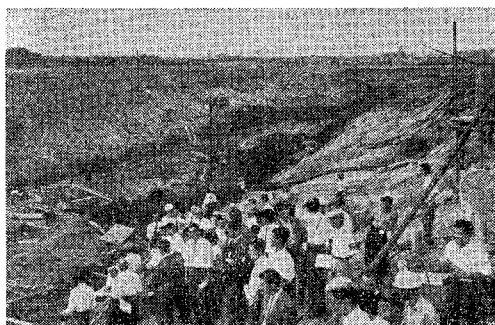
会長が当支部を来訪されたので、支部役員との懇談会を開催した。出席者：斎藤名誉会員、今前支部長、三島、宮下、入江、尾崎、千葉、梅木、小池の各幹議員、大橋幹事長。学会の運営等につき意見の交換を行ない非常に有意義であった。

会長をかこんでの懇談会
(第一ホテル)



(2) 第1回見学会 (35.8.26) 見学先：篠津運河，石狩川頭首工，新十津川ダム，尾白利加ダム（いずれも北海道開発局工事）。参加人員約120名。天候に恵まれ，各会員熱心に参観し，盛会のうちに終了した。

篠津運河月形頭首工工事見学



(3) 第1回講演会 (35.9.8 札幌商工会議所ホール) 講演者：国連拡大技術援助計画道路建設エキスパート，ルッツ・エルレンバッハ博士，講演内容：ドイツの道路について，聴講者約120名，西ドイツ界の権威の講演にさかんな拍手がわき盛会であった。

(4) 第3回幹事会ならび技術資料編集委員会(35.9.19,北海道電力会議室) 出席者：大橋幹事長，余湖，森，小川，橋戸，計良，浜田，森田の各幹事，古谷編集委員長，渡辺，岡本，小林の各編集委員。

2. 東北支部

(1) 土質講習会

土木学会東北支部，土質工学会東北支部共催
35年9月12日

- 1) 開会の辞 土木学会東北支部幹事長 9.00
- 2) あいさつ 土木学会，土質工学会各東北支部長
- 3) 講習
土と基礎新工法について（テキスト使用）

講師	東京大学教授 最上 武雄	9.20~10.30
"	日本鋼管KK 吉村 元宏	10.40~12.00
	休憩	
"	国鉄盛岡工事局長 岩永 義美	13.00~14.10
"	運輸省土質部 中瀬 明男	14.20~15.30
"	農林省農地局 手島 渚	15.40~17.00

9月13日

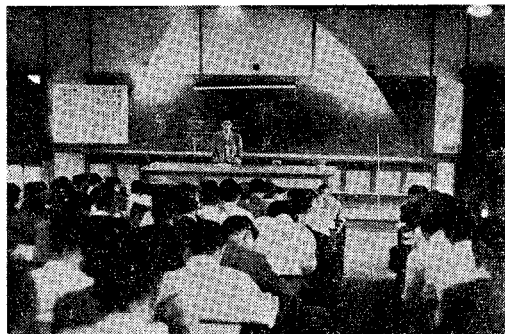
講師	早稲田大学付属高工 古藤田喜久雄	9.20~10.30
"	国鉄土質研究室長 斎藤 迪孝	10.40~12.00

4) 閉会の辞：土質工学会東北支部幹事長

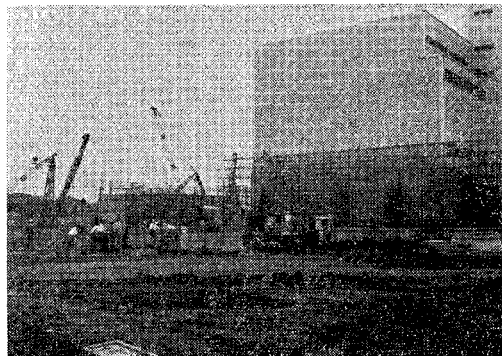
5) 見学会：バス乗車 13.00~16.00

塩釜市東北電力KK火力発電所第三期工事見学，仙台駅前解散

土質講習会々場
(35.9.12)



東北電力KK火力発電所見学
(35.9.13)



3. 中部支部

(1) 第6回幹事会 (35.9.13,名城飯店) 出席者：渡辺幹事長，小寺，後藤(代)，吉村(代)，高田，富永，加藤，宇佐美，栗田(代)，滝淵，藤本(代)，倉田，長坂，白井，鈴木，菊田の各幹事。

(2) 第3回見学会 (35.9.27)

- 1) 見学先：愛知用水東郷調整池および矢田川サイホン工事現場
- 2) 参加者：108名
- 3) 経過：午後1時愛知県文化会館前をバス3台に分乗して出発，東郷調整池工事現場に到着，調整池事業所岡田工務課長から工事概要の説明をきき，つづいてダ

ム（傾斜コア式アースダム、高さ30.2m、長さ960.8m）の建設状況を見学して矢田川サイホン工事現場に向かい、途中開水路の法面ライニングの機械化施工の現場を見学してサイホン（直径3.9m、長さ1651m）工事現場に到着、工区長の案内で工事状況を見学、午後4時半すぎ帰路につき名古屋駅前で解散した。出発の時は小雨で参加予定者の中で欠席された方もあったが、現場に到着する頃から雨もあがり、予定どおり盛会りに見学会を終了することができた。

編集後記

この号の出る頃は台風シーズンも過ぎ、ようやく秋酣というところでしょう。編集会議も、委員長の名座長ぶり、秋の夜長ともならず、きわめてスピーディに事務を進めております。

9月1日、吉田先生の訃報に接し愕然と致しました。この日を政府は関東大震災にちなみ、防災の日と指定しました。吉田先生の逝かれたこの日も私達の心に長く残ることと思います。今月号では吉田先生に親交のあった平山先生はじめ各方面の代表の方々の御慶稿をいただき、先生の追悼特集と致しました。あらためて先生の慶眼に接する気が致します。

坂野氏の「土木技術者の海外進出と問題点」は日本から一番遠い国とされていた中近東を、土木技術という面ですぐと引きよせてくれた感があります。今後土木技術者の東南アジア、中近東諸国へ進出する機会も多いこと

4. 関西支部

(1) 昭和35年度末実施予定の海岸工学講習会の打合せ(35.9.7、京都岡崎、京都館)出席者：京都大学 石原、岩垣、速水、大阪大学 田中、大阪市立大学 永井、以上いずれも海岸工学委員会委員。

(2) 第5回幹事会(35.9.24、大阪建設会館)出席者：小西幹事長、井部、伊藤、石田、打田(代安原)、大村、岡田、北村(代大西)、小林、中川、宮崎、毛利の各幹事。

と思います。さらに引き続いて現地からの報告が多数寄せられることを楽しみにしております。

本号からエレクトロニクスに関する講座が開始されます。建設事業の面においてもどしどしこの方面の学問を吸収して土木技術の開発に努力すべきものと考えます。新講座の担当講師各位も編集子からよせられた難題に想を練っておられることと思います。

土木学会誌の性格上、編集に当ってはできるだけ広い範囲をとりあげようと思っておりますが、工事報告については橋梁関係、ダム関係が多いというように編集内容がかたよりがちですので、各方面からの積極的な寄稿を期待しております。また「豆知識」の補給源が不足してきました。会員各位の応援を御願ひ致します。

今度堺委員が編集副委員長になりました。斎藤委員長の良き女房役として活躍されることと思います。

【西田・記】

会員入退会について(昭和35年9月30日現在)

- 1. 入 会 55名(正 49, 学 4, 特1C 2)
- 2. 転 格 2名(学より正へ2)
- 3. 退 会 30名(名誉 1, 正 28, 学 1)

会員現在数(昭和35年9月30日現在)

名誉員	賛助員	特1A	特1B	特1C	特2	特3	正員	学生員	増加	合計
32	30	19	21	103	125	125	13561	1165	25	15181

名誉員	吉田徳次郎君	九大名誉教授、日本学士院会員	昭和35年9月1日死去	71才
正員	及川知君	建設省道路局企画課土木専門官	昭和35年9月 死去	42才
正員	岡安謹治君	国鉄、東工、地下鉄線課	昭和35年9月5日死去	51才
正員	中山憲三君	日本舗道KK福岡支店	昭和35年7月22日死去	30才
正員	松崎昌行君	埼玉県土木部川越土木事務所	昭和35年9月2日死去	29才

昭和35年10月10日印刷

印刷者 大沼正吉
 発行者 末森猛雄
 定価 100円

昭和35年10月15日発行

印刷所 株式会社技報堂
 発行所 社団法人土木学会
 振替 東京 16828 番

土木学会誌 第45巻 第10号

東京都港区赤坂溜池5番地
 東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
 電話 (351) 5130・5138・5139 番